

大学院生に望む

玉川大学長 小原 芳明

高学歴化した日本社会は多量な高度情報を必要としています。新しい知識はさらに新しい知識を求め、その応用で出現した科学技術もさらに新しい知識を求めます。これは過去から行われてきた知識生産ですが、それは時代と共に一層加速されています。情報伝達技術の発展は新たに生産された知識の輪を地球規模で広げていますが、それがまた知識生産を早めるという相乗作用があります。知識基盤社会では、科学全般において世界ナンバーワンを目標にしのぎを削っているのです。大学院での修学は、そうした活動の基礎を担っているのです。

とにかく古い知識＝無益な知識と捉えがちですが、既知の知識をより深く理解した上に、新しい知識と技術が生産されているのも事実です。温故知新といわれるように、基礎となる知識を土台にして新たな知識を創造する機会も大学院で得られます。ここで求められるのは、師弟同行であり双方向の知的活動への積極的参加です。それは単に知識を貰い受けるのではなく、知識を得るために自ら行動し、未知の領域に「一歩前へ踏み込む」Proactiveな心構えを持つことです。本学が掲げている「第二里行者」の精神とは、まさしくそのプロアクティブな心構えのことです。

どの社会も、より良い明日を目指し、社会へ貢献できる人を必要としています。そして、いつの時代においても、社会はより良い社会を創り出せる人的資本の構築を求めているのです。日本は輸出できる地下資源に恵まれていません。わが国にとってSTEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）分野の人的資源がいかに重要であるのかを認識し、社会に貢献できる人間となることを大学院での学修目的としてください。学習歴社会と知識時代に即した行動を取るか否かで、大学院は「機会獲得」にも「機会損失」にもなります。大学院が有意義な結果をもたらす絶好の機会となることを期待しています。